

療医の街がわ

最前線

糖尿病症 網膜症

大口眼科クリニック
JR横浜線「大口駅」徒歩3分
辛 英世院長

眼科は角膜、網膜硝子とあって、専門分野を持つ体、白内障、緑内障、神、ちながらも幅広い眼疾患、経眼科、小児眼科、屈折矯正など専門が細分化され、ひとつの領域を得意とする専門医が多い。



を診られるのが強みだ。最大の特徴は診療時間。3分診療が当たり前。の昨今、初診の患者には10〜20分かけるといいます。

「模型や写真を使った病気の説明、処方する薬の効果と副作用、最新治療を注ぐのは、糖尿病網膜症、緑内障、加齢黄斑変性症といった失明原因の上位を占めている病気だ。」

「いずれも進行中は痛くもかゆくもない病気で、患者さんが途中で検査や治療をやめてしまいがち。それが一番問題です。突然、視力が落ちて手遅れにならないよう、



下がっても目は別もの。もう手をあげて喜べないのである。」「ヘモグロビンA1cが短期間に3%超落ちると、網膜症が一気に悪化する場合も。要注意です」

「糖尿病の方は、診断さ年1回の定期検査を続けられた時点で眼底検査を受ましよう」

OCTなど充実した検査機器 で早期発見・治療が可能

同院がささいな症状に潜む病気を見逃さないの、像を撮影できるOCTは、充実した検査機器に（光干渉断層計）などが負うところも大きい。開業医ではあまりお目にか

「患者さんの将来を考え

と、検査の質は落とせません。しっかりと調べるので、脳や内科の疾患が見つかることもありません。早く見つけて眼鏡と訓練

専門的な医療が必要なら、早いうちに適切な専門病院に送るという。近場でなかったら、セ

一方、最も身近な眼鏡（屈折矯正）について、斜視・弱視の子供の（医療ジャーナリスト・

ために週3日、視能訓練

（医療ジャーナリスト・

患者との対話を重視する町の目医者さん

